

兵庫教育大 ○中島倫、菊澤康子、青野香織

大阪城南女子短大 奥山佳世、山口雅子

目的 シルバーハウジング（以下S Hと略す）の最も大きな特徴の一つであるライフサポートアドバイザー（以下L S Aと略す）による虚弱な高齢者へのサービスが、いかに機能的に行われるかは重要である。この視点から前報（第16回関西支部）では、大阪府及び兵庫県下の10ヵ所のS HのL S Aによるサービスの実情について報告したが、本報では、L S Aの業務としての高齢者に対する生活援助サービス活動がより有意義に行われるための方策を明らかにするため、対象をより広範囲に求め、多様な援助システムについて検討することを目的とした。

方法 平成6年度現在、S Hの供給管理が開始されている全国のS Hの供給主体40ヵ所の公営住宅管理係、及び各S HのL S Aを対象に、平成6年9月～11月の間に生活援助サービスに関する内容について郵送法によるアンケート調査を行い、24ヵ所より回収した。

結果 L S Aによる基本的サービスである①安否の確認②緊急時の対応③生活指導・相談④一時的な家事援助⑤関連機関との連絡、などのサービスが行われているのは、24例中21例と多くに見られるが、各サービスの実施方法は各自治体により異なる。その影響要因には、L S A住宅の有無、L S Aの研修の有無、勤務形態、S H内の安否確認のための設備、緊急対応システム、併設・隣接施設の有無、などがあげられる。また生活援助活動に対してL S Aからは、入居者に対する職務上の役割や責任、勤務上の処遇、業務内容や勤務形態などについて様々な問題点を持つものが多いことがわかった。